

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援所はる（児童発達支援センター）		
○保護者評価実施期間	R6年 11月 1日		R6年 11月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	128	(回答者数) 87
○従業者評価実施期間	R6年 11月 5日		R6年 11月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 31
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 12月 12日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お父さんと保護者が一緒に通所し、活動に参加できる。	保護者と職員が一緒に過ごすことにより、育児に限らず相談や雑談ができる関係づくりを意識している。	保護者の悩み、相談を専門職がタイムリーに対応していく。
2	専門職（各セラピスト）が在籍しており、それぞれの立場からお子さまにとってより良い支援を検討し、療育に取り入れている。	担当していて、専門外のことではわからないことがあれば、セラピストに助言や対応を求め、子どもの支援に活かす。	すでに実施しているが、他の職員も専門性に応じ支援を行っている。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他業務が多く、会議に参加できない職員もあり、情報共有の時間が取れないことがある。	送迎箇所も多く、他業務が多い点。	すでに対応しているが、参加できない職員用にノートや職員間の携帯スケジュール共有アプリを活用し、共有できるよう努めている。
2			
3			